

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|-----------------|
| 事業所番号 | 4171600085 |
| 法人名 | 社会福祉法人 ナイスランド北方 |
| 事業所名 | グループホーム きたがた |
| 訪問調査日 | 平成20年3月28日 |
| 評価確定日 | 平成20年6月25日 |
| 評価機関名 | 佐賀県社会福祉協議会 |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 4171600085 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 ナイスランド北方 | | |
| 事業所名 | グループホーム きたがた | | |
| 所在地 | 佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18 (電話) 0954-36-2410 | | |
| 評価機関名 | 佐賀県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年3月28日 | 評価確定日 | 平成20年6月25日 |

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 11 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|-----------------------|
| 建物構造 | 木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分 |
|------|-----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 800 円 |

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 5 名 | 女性 13 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 9 名 |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 0 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 77 歳 | 最高 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 戸原内科・小川内歯科・北川眼科・大町町立病院 |
|---------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に木造平屋建ての古民家を思わせる懐かしい作りの事業所である。木をふんだんに使い、梁が見える高い天井や竹を取り入れた戸・木目の違う材質で作られた各部屋の扉など、随所にこだわりが見られる。広いリビングには、一面の窓から外の日差しが注ぎ、間接照明との組み合わせで明るく開放的な空間となっている。景色も、大きな池と池に続く山並みから四季折々の自然変化が楽しめる。リビングのソファや畳のスペースでくつろいだり、リビングに続くバルコニーで外の空気を吸ったり、又、景色を眺めながら畑で野菜作りをしたり、思い思いの時を過ごす事が出来る。月見会には、近所の方と一緒に月見をしながら、俳句を詠んだり、ホームが地域に開放している囲炉裏の部屋に作品を飾っている。職員の前向きな姿勢とチームワークが、入所されている方の生活の安定や安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善課題となった介護・看護の記録については、記録方法を見直し、わかりやすい記録となり、業務改善に役立っている。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に周知するため、自己評価用紙を各自で読んでもらい、意見を出してもらうようにした。次年度は、各自担当を作り、記入ができるように工夫して取り組む事としている。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の出席者全員が発言でき、会議が活性化するように、事業所の報告を行った後、一人ひとりから意見をもらっている。それぞれの立場の意見が聞かれ、大切な情報収集の場となっている。馴染みの関係もでき、ホームの理解も深まり、活動が広がっている。 |
| 重点項目 | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時は、声かけをし、日頃の様子を伝えたり、家族から気がついたことを話してもらうなど、関係作りにも努めている。事業所の質の向上のためアンケートの配布を行っている。今後、アンケート結果の一層の活用が期待される。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の溝掃除の参加や月見会や映画試写会など行事案内をしながら、地元の方々と交流する事に努めている。ホームの一部を地域に開放し、地域の方が利用できる空間の提供も行っている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人ひとりがその人らしく笑顔で過ごせるようにとの思いで「自分らしく、ほがらかに」の理念を、職員全員で話し合い作り上げている。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 月1回のグループホーム会議で、理念に沿った援助について話し合い、職員全員が理念を共有しケアに取り組めるようにしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域住民の一員として、溝掃除に参加している。また、「がばいばあちゃん」の試写会に、地域の方々を招待し、ジュースやポップコーンを一緒に食べながら利用者と共に過ごす機会を作るなどして交流を深めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価結果で、改善するところは速やかに改善し、業務に役立てている。今回の自己評価も、全職員に伝え、皆で取り組めるような意識付けをしている。 | | |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では、事業所からの報告の後に、参加されている全員の方からの発言がもらえように、進行に配慮しそれぞれの立場からの意見が出されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村の担当者には、日ごろから、分からない事や迷っている事をたずねるようにしており、良い関係づくりに努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の方の来訪回数が多く、来られた時には利用者の様子を伝えている。少しの変化でも連絡してほしいと言われる家族には、要望に応じて対応している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪時、常に声かけをし、何でも言ってもらえるように日頃の対応を大切にしている。また、家族の方へアンケートを郵送し、要望や意見が出やすいようにしている。 | ○ | アンケートの結果を話し合い運営に反映されているが、報告は家族会に来られた方に口頭で報告されている。アンケートをお願いしたすべての方に、郵送で結果報告をすることで、事業所の取り組みも理解が得られ、今後の意見が出やすくなるなど効果が考えられる。アンケート結果の活用方法の益々の充実を期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の交代については、利用者の個々に応じた説明を行い、不安にならないように、職員間で状態把握に努めている。法人内での異動時は、異動後も顔を見せるなどできる限り配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護福祉士やケアマネージャーの資格取得ができるように、法人内で研修を企画し、働きながら学べる機会を作っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホーム見学や行事へのお互いの参加などを通して、交流の機会を持っている。今後、交流研修の機会を設け、質の向上に取り組むと考えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 新たな環境に慣れるために、週2回の外泊を行いながら、徐々にホームでの時間が多くなるように家族と協力し対応している。それぞれの方に応じた柔軟な対応をしながら、徐々に馴染めるように工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者から畑仕事や料理・食器の置き方など、一緒に活動しながら、職員が教えてもらう場面を作り、ともに支えあう関係づくりを心掛けている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所前に、本人や家族から基本情報を収集し、意向の確認に努めている。入所後も、日々のかかわりの中で、本人の思いを把握できるように対話や情報収集に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | アセスメントは、担当職員が行い、日ごろの様子から、介護計画に必要な情報を提案し、計画作成担当者と話し合い、計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画に沿った援助について、日々の記録と、3か月ごとの評価を行い、定期的な見直しと必要時の見直しが行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族と話し合いながら、外泊や外出の支援を行うなど、柔軟な対応を行うようにしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時、家族や本人の意向を確認し、希望するかかりつけ医への受診が支援されている。家族による通院の付き添いがされた場合は、状況を確認し、日誌に記録して、全職員が分かるようにしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入所時には、重度化した場合などを考えて、施設申込みを行うなど、家族への情報提供を行いながら、必要な援助ができるように随時話し合っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 日頃から、全職員言葉使いに注意するように意識している。部屋の名札もプライバシーに配慮し家族の了解をもらい、掲示している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者へ「何をしましょうか」と声かけをし、好みの活動に参加できるようにしている。一人ひとりの好き嫌いを見極め、好きなことができるように配慮している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|------|---|
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理や盛り付け・片付けなどは、職員と一緒になされている。食事と一緒に食べ、楽しい雰囲気づくりをしている。畑には野菜を作り、利用者と一緒に収穫している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人のペースに合わせて、一人ひとりゆっくり入浴できるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 役割を持つことや楽しみ事を作ることは、大切な支援と考え重視している。一人ひとりが役割を持ち、生き生きと生活している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | バルコニーは広く開放的で、自由に出られ、ゆっくり過ごせるように椅子が置かれ、山や池の景色を眺めることができる。季節の行事や併設の特別養護老人ホームの庭の散歩など積極的に戸外へ外出している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関に鍵をかけずに、職員の見守りと出かけて行かれる方には、付き添って一緒に外出するなど、自由な暮らしを支えている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の避難訓練を行っている。スタッフルームには、緊急連絡網が掲示され、すぐに連絡ができるようになっている。 | ○ | 事業所だけの訓練ではなく、夜間時や職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や地域の消防団の参加協力を得た訓練の実施も期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量・水分量が、わかりやすく記入され全体の把握ができています。個別の嗜好や本人が食べられる食事の量などを把握した上で、提供する食事に配慮している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物全体が古民家風で木をふんだんに使い、なじみやすい雰囲気がある。畳やソファなどが用意され、好きな場所で過ごしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込みは自由で、ソファや仏壇、家族の写真を飾るなど、その方が落ち着いて暮らせるように家族と話し合いながら工夫している。 | | |